

## 教育用語解説

### 教育用語の解説 「CBT」方式

「CBT方式」とは、「Computer Based Testing」の略で、コンピュータ上で実施される試験のことです。これまでの各種学力調査は、問題用紙を配付して、解答用紙に記入する方法で行われてきました。CBT方式は、問題提示も解答入力も、採点作業もすべてコンピュータ上で実施される調査方式です。

OECD（経済協力開発機構）が3年おきに実施しているPIISA調査（生徒の学習到達度調査）は、2015年調査からCBT方式に移行しました。この調査では、日本の読解力の低下が話題になりました。この背景のひとつとして、「紙ではないコンピュータ上の複数の画面から情報を取り出し、考察しながら解答する問題などで戸惑いがあった」（国立教育政策研究所）と考察されています。そのため、全国学力学習状況調査や各自治体が行う調査も、今後この調査方式の導入が進んでいくものと思われます。

CBT方式には様々なメリットがあります。まず、問題用紙や解答用紙の印刷・配付・回収の手間がかりません。選択式の解答や数字で解答する問題では、簡単に正誤判定が可能になります。解答後、結果がフィードバックされるので、すぐに復習することもできます。

一方、留意点もあります。学校で一斉に試験を実施する場合、同一時刻に大量の通信を行うことになり負荷が大きくなるので、学年ごとに実施時間をずらすこと、キーボードやマウスなどで解答することもあり、操作の習熟度を高めていくこと、さらに、カンニングを防止する対策をすることなど、運営や児童の指導面での配慮が必要です。

今後CBT方式を活用して学力調査だけではなく、日常の授業評価に活用していくには、児童・生徒、教員共にシステムに慣れていくための環境整備をし、学力向上に繋げていくことが求められます。

令和3年度 広報部 梶 義典

### 編集後記

## 新

型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、令和4年度がスタートしました。足かけ3年になりますが、各学校では、教育活動を止めないとの強い思いをもって、「新しい日常」を意識した学校生活を創り上げていることと思います。また、新学習指導要領の完全実施が小学校では3年目、中学校でも2年目を迎え、新たな指導法、評価が浸透しつつあります。さらには、GIGAスクール構想による個別最適な学習スタイルの確立も学校が継続して取り組まなければならない大きな課題の一つです。

これら一つ一つの課題を解決するカギを握るのは副校長・教頭です。副校長・教頭が横のつながりを深め、知恵を絞り合い、指導性を発揮して教職員の力を融合していくことで学校運営は前に進むと思います。

機関誌第7号は、ICT教育や学習指導要領、教育課題、教育法規・危機管理等示唆に富む内容を掲載いたしました。課題を解くためのヒントを得る一助となれば幸いです。

令和3年度 広報部 松久保 雅和



### Educasphere 2022 Vol.7

発行	2022年6月6日
編集	全公教機関誌編集委員会
著作権所有	全国公立学校教頭会 会長 漆崎 英二 〒105-0002 東京都港区愛宕1-6-7 愛宕山弁護士ビル401号 電話 03-3436-4868 <a href="http://www.kyotokai.jp">http://www.kyotokai.jp</a>
印刷・製本	壮光舎印刷株式会社
表紙	国宝 旧開智学校 (Photo by J. S)